

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ハミング子ども教室				公表日	R8年 1月 30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		園庭、ブレイルーム、他4部屋のスペースがある。指定基準以上のスペースがあり自由遊びや課題を楽しんでいる。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		支援員10名。ほぼ6~9名の支援員がいる。定員10名だが常勤6名非常勤4名で毎日の支援に取り組んでいる。	自由時間など、各部屋に子ども達の人数が偏ることがあるので気を付けていきたい。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		門扉に掲示板を設置し、月の日程やイベント等の掲示を行っている。各支援室に「ひらがな」で室名が書かれており玄関には階段とスロープが用意している。	配慮しているが不都合なことが起きた場合はすぐに改善している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		昼食後や降園時にそうじを行い、清潔に保てるようにしている。ブレイルームに外気入力換気扇と出力用があり、空気清浄状態を保てるチェック機が赤から緑になるように注意している。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		気持ちが乱れてしまった子が落ち着けるように部屋を設けている（静養室）情緒が不安定になったりお昼寝ができる部屋がある。医務室もある。ブロックあそびのお部屋。ぬいぐるみのお部屋と称して花瓶状態が出たお子さまが個別で遊べるようにしている。	個別の部屋があるので必要に応じて利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		年に3回ケース会議を行っている。業務前や後にその都度話し合っている。朝礼時に個別のケース会議を行うようにしている。朝の支援前の打ち合わせ時、前日の振り返りや目標等を再チェックしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		職員全体で保護者の意向を大切にし、個別で話が出来るよう心がけている。評価の内容を把握し、改善できるようにしている。集計結果をもとに会議を開いている。評価表等、スタッフ全体で把握し改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		常に職員間で話が出来るようにし、なにかあれば皆で考えるようしている。情報共有の為に連絡ノートも作っている。意見の言いやすい環境だと思う。その都度話し合っている。スタッフ等の思い意見を業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5	月に一度絵本の読み聞かせをしてくれているグループの方がそのつど子どもの様子や変化などを評価してくれている。現在、外部評価専門には依頼をしておりません。「絵本読み聞かせ会」の方々が読んでくれる中で子どもの受け止め方を評価してくれている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		内部研修を行っている。研修等の知らせは観覧できるようにしている。施設内研修を中心に外部研修も年に数回行っている。		
支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		パンフレット、HPに公表している。支援児全員に個別支援プログラムを公開している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		保護者に事前に記入してもらうキッズサポートリストを作成し保護者の希望が反映されるようにしている。アセスメント会議や保護者の要望を理解し作成している。「観察支援」と称して各個人の成長をアセスメントして個別支援計画書を作成している		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	個別支援計画書を作成する前に検討会議を支援員参加で行っている。アセスメント会議をし、職員同士で話し合いをしている。児発管を中心にして子どもひとりひとりの成長発達のため、スタッフ間で共通理解をする。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	個別支援計画書の説明があり職員同士で話し合いをしている。朝の打ち合わせ時に「個別支援計画」のスタッフ間の共通理解の基、支援している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	皆で話し合いを持って考えている。ポーテージチェックリストを参考にしている。MEPAやポーテージプログラムに沿って観察支援を行い、家庭での様子も書いてもらっている。フォーマルな「ポーテージ発達プログラム」を基に支援計画をたて、インフォーマル等を取り入れる。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	児童発達支援ガイドラインの計画をもとに色々な場面に対応できる支援を行えるように務めている。	「移行支援」「地域支援・地域連携」の支援内容が難しく感じる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	一ヶ月単位で活動を考えている。活動の立案等を全体スタッフや3グループで行う。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	固定化しないように季節やイベントを入れ職員が順番に考えている。定期的にスタッフ間でアイデアの話し合いをしている。1週間に5~6課題に分けてその土台課題をベースに季節や行事も行う	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	個々に応じて皆で話し合い工夫している。木曜教室などひとりひとりにあった教室に分かれ活動することもある。デイリープログラムの中に「朝の集い」という総合訓練がありそれぞれの子どものプログラムあり。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	ほぼ毎日できているが職員が全員そろわないで全員が共有できるようにノートを使っていて。朝礼で話し合っている。「朝の打ち合わせ」のなかでその日の確認。当番の確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	ほぼ毎日できているが職員が全員そろわないで全員が共有できるようにノートを使っている。連絡ノートを利用している。降園ごの片づけ準備とともに支援の振り返りを行い、次の日につなげる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	毎日、写真付きの日誌製作(サービス提供記録)を作っている。毎日の支援の様子を記録し、生活力、対人関係、愛着行動の変化等を中心に検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	職員間で話し合い見直しを行っている。ポーテージに基づき定期的に観察するようにしている。定員の子ども達を順番に「観察支援」ポーテージプログラムを基にモニタリングしている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	2	相談支援事業やショートステイの事業所との情報交換は必要に応じて隨時行っている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2	保健センター・医療機関への同行。支援児の保健センター・医療機関での発達相談や検査に同行し園での様子や成長の状況を伝えている。

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		保育所や幼稚園への訪問で支援内容や情報共有で相互理解を図っている。課題成長児の幼稚園等の並行通園を行っている。また成長の様子から移行児の共通理解ができるよう、保護者を含めた地域の園とのインクルーシブな支援を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		支援学級の先生の訪問や支援学校へ支援内容を提出したり情報共有を相互理解できるようになっている。市県教育委員会等の就学移行を保護者、事業所そして行政としての情報共有をしている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	5	市自立支援協議会等に参加させていただき、そのつどアドバイスをもらっている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	7		保育所等の園庭開放日などに遊びに行けたらと思う。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時や面談で話す機会を設けている。保護者による送迎時に、その日の生活状態の話から家庭での様子をうかがい課題につなげ支援の土台にする。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3	OG会、保護者の福祉勉強会がある。現在、家族側の支援プログラムは行っていないが園内家族相談は多く行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時等に行っている。契約時には、児発管が内容を説明をしたうえでサインを頂いている。	
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		事前調査表で保護者の傾向を書いてもらっている。支援計画を作成する(前期・後期)時に保護者の思い等参考に計画製作を行う。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		懇談時に同意を得ている。前期後期の面談で行っている。個別懇談会の中でお子さまの成長を支援計画書の評価を見て頂き、説明後にサインをもらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		随時行っている。希望があれば迅速に行っている。家族相談はすでに行っている。祖父母の願い、父親の本児に対しての思い、その伝え方等、相談、助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		夏祭り、クリスマス会、運動会などはきょうだいや親せきなども参加できる形にし、競技やおたのしみの皆で参加できる機会も設けている。保護者会等はないが学校や工場見学の機会を持ち保護者が交流できる機会を増やしている。保護者交流会として不定期でおもにお母さん同士で集まり「お茶会」「物々交換会」などを行ってくれています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		当事業所の相談員が随時相談援助を行っており納得いくまでお話をできる体制にしております。	

非常時等の対応	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		月予定のカレンダーやイベントの開催日程を前もってプリントで配布している。毎月の行事・支援予定等のカレンダー用紙を送付している。またSNSの利用もしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人情報の取り扱いとして保護者の契約書等に明示してある。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		まず保護者の方と意思疎通できる環境作りをしてから情報伝達に入る。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5	近くの大きな施設に避難場所として利用をお願いしたり、地域の活動（消防やお祭りなど）に協力させてもらっている）。マジックショーの方や、よさこいのげんごろうさんなど、様々な地域の方と連携できるようにしている。地域の夏祭りなどのお誘いがあり竹燈夜などの製作活動などがある。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		防犯、感染症の訓練を実地している。各対応防止マニュアルの担当者を決め、状況によつて訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		避難場所に実際に実行して避難訓練を行っている。非常災害の発生に備えて定期的に訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		入所時に確認している。服薬は投薬指示書に記載してもらい薬の説明書の添付は必須にしている。基本的にはご家庭でお願いしているが、日中の服用が必要な場合のみ「服薬申請願い」を出してもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		入所時に確認している。入所時に、食物アレルギーがないかチェックしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		月に一回避難訓練。地震、火災、不審者等。「ハミングリスクマネジメント計画」として表を作っており、送迎車（8人のり）には「置き去り防止ブザー」が設置している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		避難場所の地図を三角ノートに入れている。安全計画訓練や地震・火災・つなみ等のアニメ動画を視聴し、子ども達にもわかりやすく伝えている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		その都度行っている。ヒヤリハットの状況を担当時のスタッフが用紙に書き込み、スタッフ間でも共有、方向性を出して防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		内部研修を行っている。虐待防止担当者による研修時、医師による説明や、成人施設などの過去の虐待事例などを学んでいる。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		当事業所では、「身体拘束」について支援計画に記載しており十分に説明し、同意を得ている。災害時など、命に係わる緊急時は例外など。	